

コースメモ

75. 橋 - 26 (カワセミ橋)

次号へ 安徳台西側周辺

史跡メモ

9万年前の地層 (阿蘇山火砕流)

安徳台 (迹驚岡)

弥生時代中期の住居跡 (大きさが日本最大級)

有力首長の墓

43個以上のゴホウラ貝の腕輪

カワセミ公園

俊岳の城山巡れば眼の前に
 行く手遮る天狗大岩

マサ子



溝清掃 (川底に溜まった砂上げが大変です)



田植え前、農家の人たちが総出で
裂田溝の川掃除を行います



上空から見た安徳台
(那珂川町の文化財XVⅡ年より)



カメ棺出土状態
左の5号棺は女性、右の2号棺は男性が埋葬されています
(那珂川町の文化財XVⅡ年より)

「下御所橋を過ぎると、溝の右岸沿いに立ちのぼるように、切り立った崖が下流に向かって続きます。この一帯は、安徳台の山裾が溝に迫り道もなく、雑木等で全く人が近づけない場所でしたが、今回の水路改修に伴う遊歩道工事で雑木が払われ、一挙に陽射しが差し込みました。ここでは、古代の地層を見ることが出来ます。この地層は、今から約9万年前に阿蘇で起こった大噴火によってもたらされた、火砕流の堆積層の跡です。崖の高さ約6m、長さ133mと続き、途中直角に右折し東へ向かい「町道山田松木線」の道路に突き当たるようにして続いています。この崖を初めて見たとき、これまで想像もおよばなかった光

景に、一瞬足が立ちすくみました。『日本書紀』の時代をはるかに越えた古代の驚異を目の当たりに体感できることは、なんと素晴らしいことでしょうか。今では、この大自然の神秘に感動し、それが喜びに変わりました。『現地に来て、この崖の前に立ってください』と叫びたくなります。また、崖の表面には無数の小さな穴が見えます。これらはおそらく「カワセミ」や、「ヤマセミ」の巣穴であるうと、王塚台にお住まいの野鳥の先生に教わりました。工事のせいか、現在、巣穴は使われていないようですが、今でも三度の食事の時間帯になると、どこからともなく「カワセミ」が飛んで来て、見事なダイビングを披露し、散策の人々を楽しませてくれます。豊富な魚が泳ぐ溝の恵みを知っている「カワセミ」たちは、きっと近くで巣穴を作り存在をPRしているのでしょう。



9万年前の阿蘇Ⅳ火砕流の堆積層の崖



カワセミ橋 長さ10.57m 幅2.3m 高さ1.1m



9万年前の阿蘇火砕流堆積層の崖



約9万年前の阿蘇Ⅳ火砕流の崖面 (工事前)

探訪 102

ながわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝29

カワセミ橋周辺

